



川口市立在家中中学校 川口市大字安行領在家272番地
048(295)4102 FAX 048(295)5661
URL <https://zaike-j-kawaguchi-saitama.edumap.jp/>



- ・心身ともにたくましい生徒
- ・自ら進んで学ぶ生徒
- ・豊かな情操を培う生徒

絆（きずな）

校長 鈴木 玲

新しい年を迎えて1か月が経ちました。北陸地方に甚大な被害をもたらした地震発生からも1か月が経過したことになりますが、連日の報道からは今もその被害の大きさを認識させられます。大変遅くなりましたが、今回の震災で亡くなられた方に謹んで弔意を示しますとともに、被災された多くの方々に心よりお見舞いを申し上げます。併せて、一日も早い復興をお祈りいたします。

今回、本校を含む神根地区の小・中学校9校合同で『能登半島地震災害義援金』を募りました。初めに在家小学校の校長先生からこの義援金活動のご提案をいただいたのは1月5日（金）の朝でした。神根地区の学校長のLINEグループで発せられたこの提案に、次々と「賛同します」の返信が寄せられます。「『神根地区《絆》プロジェクト』として取り組みたい」。これもまた、在家小学校からの提案でした。本校の生徒・保護者には、9日（火）の始業式の日に関わりを呼び掛け、翌10日（水）・11日（木）の2日間で行うこととしました。急なお願いと非常に短い実施期間にも関わらず、85,000円もの義援金をお預かりすることができました。



「神根地区《絆》プロジェクト」。今回、地区の全小中学校が同じ思いをもって一つの取組を行うということで、この活動はこのように名付けられました。奇しくも昨年2月の在家中だよりでは「在家中《絆》プロジェクト」と称してキャリア教育講座『Zaikeスクール』の実施を紹介しました（在家中だより No.450 参照）。昨年の「《絆》プロジェクト」は在家中の生徒・保護者・地域・学校の四者の結びつきが強いからこそ実施できた取組。今回の「《絆》プロジェクト」は、9校がもつそれぞれの結びつきを地区全体で一つにまとめて行うことができた取組。しかも、その強くて固い《絆》は川口と能登という遠い土地との結びつきを生み、子供たちが見知らぬ土地の人々に思いを馳せるきっかけをつくることができました。

私が素晴らしいと感じるのは、この在家中の、そして神根地区の《絆》です。在家中の中で築かれた生徒・保護者・地域・学校を結ぶ《絆》。今回の件で言えば、学校が示した「被災地に少しでも協力したい」という考えを保護者・地域が理解し、家庭では保護者の方が子供に「学校で募金しておいで」とお金を持たせてくださったのでしょ。学校の「こうしたい」を保護者・地域が後押ししてくださる。これほどありがたくて心強いことはありません。学校としても、より一層の信頼を得られるよう努力したいと思います。



地域での活躍の場として、吹奏楽部がイオンモール川口で演奏会を行いました。（令和6年1月22日）

さらに、感動を覚えるのは神根地区の小・中学校9校の《絆》です。神根地区の小中9校の結束の固さは川口市内随一だと思っています。一つの学校が独自に行う募金活動ではなく、地区全体が同じ思いをもち、素早く歩調を合わせて動き、各校の保護者が後押しをしてくれる活動はどこにもまねのできないことです。小中学校の思いが一つだからこそ、児童生徒が9年間で積み上げていく力はより大きなものになるはず。そして、《絆》の強い地域だからこそ、子供たちが誇りを感じ、地域に貢献し、活躍できる人材を育てたいと考えています。